

平成 27 年度第 1 回御前崎市牧之原市学校組合総合教育会議議事録

日 時 平成 27 年 5 月 25 日 (金) 午後 4 時 00 分～午後 4 時 55 分
場 所 御前崎市役所 301 会議室
出席者 ○出席委員 御前崎市長 石原 茂雄
教育長 篠田 曉美
教育委員長 本目 武彦
教育委員 田代 富美子
教育委員 原崎 志保
○欠席委員 教育委員 吉村 勝
○事務局 萩原教育部長、大川総務部長、植田総務課長
伊村教育総務課長、河原崎社会教育課長、
学校教育課伊村主席指導主事、松本教育総務課長補佐

会議日程

1. 開会
2. 管理者あいさつ
3. 教育委員長あいさつ
4. 概要説明
5. 協議 (1) 総合教育会議の運営について
(2) 教育大綱の考え方について
(3) その他
6. 閉会

傍聴者 なし

1. 開会

○萩原教育部長（進行）

始めに、吉村委員より欠席との連絡をいただいておりますのでご報告いたします。

ただ今から第 1 回御前崎市牧之原市学校組合総合教育会議を開催いたします。進行を務めさせていただきます教育部長の萩原です。よろしくお願ひします。始めに管理者挨拶。学校組合の管理者であります石原御前崎市長よりお願ひします。

2. 管理者あいさつ

○御前崎市長

改めまして皆様こんにちは。本日は、平成 27 年度第 1 回御前崎市牧之原市学校組合総合教育会議を開催いたしましたところ、ご多用の中、ご出席くださいますありがとうございます。本日は、本年 4 月 1 日に施行されました「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づきまして、「御前崎市牧之原市学校組合総合教育会議」を招集させていただきました。

前回の御前崎市総合教育会議では、市と学校組合と合同で会議をして、話をひとつにした

らどうかという発言をさせていただきましたが、事務局におきまして、国あるいは県に問い合わせたところ、一部事務組合においても管理者が法律に基づいて、組合の総合教育会議を行わなければならないとの回答がありましたので、本日の開催となりました。

今回の改正のポイントは、大きく3つであろうと思っています。一つは、教育委員長と教育長を一本化した「新教育長」の設置。二つ目は、この「総合教育会議」の設置。三つ目は、教育に関する「大綱」の策定でございます。改正法では「教育長」の任命、「総合教育会議」の招集、「大綱」の策定はすべて市長の責務や権限となっておりますので、組合においてはすべて管理者の権限となり、その責任の大きさを痛感しているところでございます。

しかし、この「総合教育会議」におきまして、管理者である私と学校組合教育委員の皆様が公の場で協議あるいは調整することにより教育政策の方向性を共有し、執行に当たれるということは教育と行政のスクラム強化という点で大きな意義があると思っています。前回、市の総合教育会議を行ったばかりではございますが、今回のこの内容につきましては、いろいろ難しい点もございます。皆様方の忌憚のないご意見をいただきまして、スムーズに進行できますようお願いしまして挨拶に代えさせていただきます。

○萩原教育部長

ありがとうございました。続きまして、本目学校組合教育委員長お願いします。

3. 教育委員長あいさつ

○本目委員長

ここに第1回の「御前崎市牧之原市学校組合総合教育会議」が開催されることになりました。個人的にも大変うれしく思っています。今、市長が言われたように、教育のことは今まで教育委員でありましたが、法改正等ありまして、このように首長さんが総合教育会議を招集して、教育委員会と意見・調整や協議を行うことになりました。教育環境が大きく変わる中、様々な教育課題に対応していくことは、教育委員会だけではなく行政各部署との連携は不可欠であると考えます。

先ほど市長もおっしゃったように、この「総合教育会議」で管理者である石原市長と私たち教育委員会が協議、調整することで教育政策の方向性を共有し、共通認識をもって執行に当たれるということは大きな意義があるとも思っています。そういったことで御前崎市教育委員会とともに、私たちも提唱しているまさに「スクラム」の実現と考えております。そういったことで、今日はどうぞよろしくお願いします。

4. 概要説明

○萩原教育部長

ありがとうございました。ここで今日の日程についてご説明させていただきます。会議の所要時間は1時間を予定しております。始めに一部改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の概要について、教育総務課長より説明をさせていただき、その後協議に入っていただきます。本日の競技は、学校組合における「総合教育会議の運営について」と、「教育大綱の考え方」、この2議案でございます。総合教育会議は、自由な発言による委員協議が主体でございますので、よろしくお願いをいたします。それでは、始めに教育総務課長より、今回の法改正の概要について説明をさせていただきます。

○伊村教育総務課長

(資料により、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正について説明)

5. 協議

(1) 総合教育会議の運営について

○萩原教育部長

それでは次の協議に入っていただきたいと思います。始めに、総合教育会議の運営につきまして、御前崎市総務部長の大川より説明をさせていただきたいと思います。

○大川総務部長

総務部長の大川です。先日、御前崎市の総合教育会議を実施した時に協議をしていただきましたが、御前崎市総合教育会議の運営につきましては、市長の権限で行うということになっておりますが、事務的なもの、あるいは今までの経緯等踏まえまして、教育委員会へ補助執行というかたちで運営することになりました。学校組合とかいろいろな調整もごございますので、御前崎市と同様、学校組合につきましても教育委員会でお話ししたいと考えております。

○萩原教育部長

ただ今説明がありました、この組合の総合教育会議の運営について、ご協議をお願いします。この案件については、事務局を市長部局に置くべきか、教育委員会事務局に置くべきかでありますのでよろしくお願いをいたします。こちらの考えとしましては、総務部長がお話ししたとおりですが、それでよいかどうか協議をお願いします。

○本目委員長

御前崎市と学組と同じようなものですから、市の教育委員会でいいと思います。

○萩原教育部長

田代委員さん、いかがでしょうか。

○田代委員

市の総合教育会議の時に、事務局については教育委員会に補助執行という形でいいのではという意見を申しましたので、こちらについても同様でいいと思います。ただ、何らかの規約等の変更で、途中での変更が可能でしょうかということはお伺いして、可能であるということは伺いましたので、現状では事務局は教育委員会ということでもいいと思います。

○萩原教育部長

原崎委員、いかがでしょうか。

○原崎委員

よろしいと思います。

○萩原教育部長

それでは、篠田委員。

○篠田教育長

いいです。

○萩原教育部長

では、市長、そういうことでよろしいでしょうか。

○石原市長

はい。

○萩原教育部長

では、この会議の総意ということで進めさせていただきます。

(2) 教育大綱の考え方について

つづきまして、2点目のこの組合の「教育大綱の考え方について」ご協議をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○篠田教育長

昨年「御前崎の教育」をスクラムプランで推進するというので進めてまいりました。無論この中にも、スクラム・スクール・プランの中に御前崎中学校をきちんと入れて、7校と市内の幼稚園、保育園、こども園8園を含めた中でのスクラム・スクール・プランを実施しております。今年度もその予定でありますし、さらに事業研究やコミュニティースクール（地域運営協議会）についても、地頭方小学校それから地頭方保育園、地頭方幼稚園を交えた中で行っております。「御前崎の教育」といっても、学校組合の御前崎中学校を「御前崎の教育」に合わせた中での大綱ができればいいかと思います。もうひとつは、御前崎市が今年度、第2次総合計画を作成いたします。それに合わせて教育のところも作成していきますが、教育振興計画がまだ市として作成できていませんでしたので、5年ぐらいを目安に、市の総合教育会議でも今年度中に市の教育振興計画を作りたいと考えております。市の教育振興計画の中に、合わせて御前崎中学校も同じように触れていくということをお願いできればと思いますが、大綱は市長さんのお考えをお聞きしながらいきたいと思いますが、そういった方向でいかがでしょうか。

○石原市長

ぼくはいいと思いますが、組合立と市で食い違いは出ませんか。若干調整しないといけないところはケースバイケースでということでもいいですね。

○萩原教育部長

今、市と組合の大綱の中で調整が必要であろうというお話がありました。先ほど篠田委員から方向性の意見がありました。本目委員さん、いかがでしょうか。

○本目委員長

学校組合も、先だつての第45回卒業式を迎えて、それぞれ御前崎小学校、白羽小学校、地頭方小学校とですね。地頭方小学校の子どもは、小学校までは相良町、今の牧之原市、中学校になると御前崎町の教育委員会ということで、45年の歴史と伝統があります。そういった中で、今、教育長さんが言われたとおり、スクラム・スクール・プランということで、小学校、幼稚園、保育園の子どもを巻き込んで一緒にやってくれるということで、本当に子どもたちにとって大変よいと思います。ぜひ、よろしくお願いします。

○萩原教育部長

原崎委員、いかがですか。

○原崎委員

組合立というのは、なかなか難しい経営だと思いますが、1人1人のことを考えてくださった計画を立ててくださっているの、保護者の立場としてはありがたいお話だと思います。生徒も保護者も中部地区の先生、西部地区の先生なんて1つも思っていないと思います。

ただ先生とだけ思っているだけなので、そこに関しては上の方で決められていること。ただ、御前崎中に行くと、西部の大会に出場するという事しか思われていないと思います。そこも踏まえて、牧之原市のことも考えていただいて大変うれしく思っています。また、よろしくお願ひします。

○萩原教育部長

田代委員、いかがですか。

○田代委員

先ほど市長さんから食い違ひが起きないかというお話がありましたけど、私はやはり一部考えていかななくてはならないかなと思ひています。それはなぜかという、昨年からスクラムプランで地頭方の小学校の子どもも先生方も一緒になって、御中に行くのだからということで授業研究をやったり、幼・保も一緒に巻き込んで中学校区でやろうということは、ものすごく大事な事、子どもにとってもものすごく大事な事であり、とても効果がある事だと思ひています。ただひとつ、ちょっと心配している事は、日本の教育ですので、とんでもなく方向性が違ひということはあると思いますが、地頭方の先生や子どもたちは、牧之原市の教育方針で来ている訳ですよね。で、私としては逆にそれはものすごく大事な、たとえば自分たちが御前崎市に住んでいれば、御前崎市がどういふ方向で進んでいこうというのをものすごく大事にして具体化しようとする。その部分と御前崎市が狙っているものというか、微妙なところにずれが起こるかもしれないと思ひます。そのずれがあることがなんなのか、なぜそのずれがあるのか、その意味が子どもにどう返るのか、ということとちゃんと大綱を考えていくときに、学んで立てていくことが大事ではないかと思ひます。

○萩原教育部長

大綱のイメージですが、先にお配りした総合教育会議関係のQ&Aの22ページに、問70ということで一部事務組合における総合教育会議の設置、大綱の考え方が記述されていますので、大綱につきましては、これからこの会議並びに各教育委員会の中でも協議されていくと思ひますが、こういうことで御前崎市それから一部事務組合を併記して大綱ということにすることも可能であるとありますので、申し添えておきます。何にしても大綱につきましては、これからは教育振興計画とも絡んで協議が必要だと思ひますので、よろしくお願ひをいたします。では、方向としてはこういう形でやっていくということで、この会の協議が整ったということで考えさせていただきたいと思ひます。

(3) その他

今日始めに示しました協議2点については、ご同意いただいた訳でございますが、先ほどから出ていますように、一部事務組合という、県内でも少ない、全国でも少ない形態をとっている御前崎中学校でございますので、この機会に、せつかくの機会でございますので、いろいろなお發言を、議題は何もございませんので、各委員さんのそういう意味でのご發言をいただいて協議をいただければありがたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

ひとつ本目委員から口火を切っていただきますよう、お願ひします。

○本目委員長

静岡県下でも、この御前崎中学校と牧之原小学校、この2つの組合しかありません。そういった中で、それがいい悪いは別として、やはり市町の合併とか、いろいろなことでこのよ

うになったことは確かです。しかし、45年前に白羽、地頭方、御前崎の中学校3校が統合して、場所は新庄に建てて45年の歴史があります。伝統ある、いろいろ勉強とか部活動とかあります。そういった中で学校組合は大変だと思います。何がいかといても結論は出ないと思いますので、そういったことでやはりお互いに市長、あるいは教育長、関係者との密接な、なるべく早目に問題提起して、何が問題なのか、予算とかお金にまつわる話があると思います。それは両市の市長あるいは教育長が話をするというので。市長が管理者ということで位置付けられております。問題があったら、子どもや保護者にも説明をしながら早期解決をしながら、それから皆さんのご意見を聞いて、どれが一番いいのか聞いて、今後も考えていかななくてはならないと思います。そういったことでよろしくお願いします。

○萩原教育部長

先ほど田代委員さんから、牧之原市の教育と牧之原市の教育が必ずしも一緒ではないという中で双方の教育を大事にしたいという話がありましたけども、今、本目委員さんから出された話しに続いて、そのあたりをもう少し田代委員、お発言いただければありがたいですがいかがでしょうか。

○田代委員

実際に牧之原市の教育の施策あるいは重点がどのようなものなのか、具体的に見ている訳ではありません。ですから、具体的に申しにくいですが、でも、知る必要はあるかなとは思っています。ただ、今年度から具体的に、スクラムスクール運営協議会がいよいよ5月28日からスタートして、全国でも珍しいこの方向性で、異質のものが集まってひとつの会をもっていくというのが、とても期待される部分が大きいと思います。ですから、地頭方の保護者の皆さん、地頭方の先生方、校長先生あるいは他の先生方、園長先生方と話をすることによって、なにか得るものがあるかなということだと思います。去年の浜中で研究授業をやったときに地頭方小の校長先生がみえられて、こんなに深く研究をしていることに僕はおどろきました、という発言がありました。だから、お互いにそういう部分で、どんなことをやっているのか、どこに違いがあるのかを聞き合うことはとてもいいことだなと。しかも、その違いを明らかにすることを恐れてはいけないと思います。今、原崎さんが西部、中部の先生といいましたが、どこにも線は見えないけれども、本当に榛原の教育と小笠の教育とでは、すごく違いを感じたことがあります。だから、そういう意味で両方のいいところをもらって、御前崎の原案を作っていけばいいのではないかと思います。

○萩原教育部長

原崎委員、どうですか。

○原崎委員

今、田代委員が言われたとおりですが、私も1保護者でしたら何も感じなかったことです。だけど、去年スクラムプランをやって、御中に地頭方小の先生が来てくれました。話し合いをしました。やはり、先生同士なのになんでこんなに交流がないのか、別にそこで対抗する訳でもないし、御前崎中学のことを小学校の先生たちが考えればいいことなのですが、話題もないし、お互い交流しようという雰囲気というか気持ちと考えられなかったです。私が座っていたときに感じたことですが。そこからやはり始めていきたいな、和めたらいいなという気がします。中学にいつてしまうと、さきほどいじめの問題がありましたよね、同じ小学校から来た子ども同士なのか、違う小学校からきた子ども同士なのか、そういうところの違

いもあると思います。同じ小学校から来た子だったら、やはり小学校からそういうことがあったんだと。違う学校からだ、やはり3校揃っていますので、その問題もあると思います。1つのいじめと考えると、そこを生徒同士、ちょっと先生が見てやってあげたらなという気持ちです。やはり少し感じていることは、地頭方小学校の子どもは心が弱い子が多いです。なので、そこは幼稚園、小学校から積み重ねてきたことなのか、家庭の事情も中にはありますが、やはり教育の違い、育て方の違い、モチベーションの持たせ方の違いというのがあるのかなと少し感じています。なので、もっともっと密になっていただければというようなことは感じました。

○萩原教育部長

篠田委員、いかがでしょうか。

○篠田教育長

今、原崎委員さんがおっしゃられた教師同士の交流というのは、同じ小笠地区にあっても、同じ浜岡中学校学区にあっても、小学校と中学校の教員も交流がそんなにあった訳ではなく、それぞれ何か問題が起きて、小学校や幼稚園にすぐ問い合わせるということは少なかったです。昨年からそういったことをやっていく中で、移動教育委員会もやる中で、保育園、幼稚園、小学校、中学校とだんだんつながって、先生方がまず交流することが一番大事で、池校の校長先生まで入っていただいて交流しているのですが、まずは教師同士がいかにか気楽に子どものことを聞けるか、学校のことを聞けるかというのは大きいという意味で、スクラムプランは、数年は目玉としてこの地域はやっていきたいと思っています。ありがたいことに地頭方小学校は、那須先生がずっと入ってくださっていて、御前崎側も那須先生が全部入ってくださっていて、特に先だっても学校教育課長が地頭方小を訪れたときに、校長先生から那須先生についての校内研修のものを持ってきてくれて、そういう意味では、まったく同じ教授に指導されているので、今後、授業については楽しみというか、膨らめていきたいなと思っています。ただ、さきほど田代委員さんがおっしゃったように、榛原地区と御前崎地区の教育というのは、本当に違いがあります。そのところを今後どういうふうに進めていくかというのは大きな課題だと思います。

それからもう1つ気になっていることは、これは市長さんの考えもお聞きしたいのですが、たとえば洋上体験学習といった市の行事のものに地頭方出身の子は入れないというのはどうしたらいいのか、ということをお聞きしています。

○石原市長

非常に難しい。とにかく行政というのは、どうしてもその市町の税金面で運営されている問題も多くて、一番僕が子どもの教育に差をつけてはいけないと思うのは、この間、池高の後援会の総会があつて、今、望月基金が1億数千万円あつて、そのお金を使って子どもたちを海外で勉強させたいということで、浜岡中学校あるいは各小学校に使わせてやりたい。御前崎中学になると、御前崎の子どもと牧之原の子どもと分けなくてはいけないという苦しさ、それとこれからは、さきほど教育長とか田代先生がおっしゃったように、幼保からすべて高校まで考えていく中で、相良高校もそうだろうと思うけど、とにかく我々は、御前崎に住んでいる人間としては、御前崎にある池新田高校をどういう形で教育するというか、悪い意味で教育ということではなく、浜中からも御中からもこの学校に行ってくれて、それがうまく結ばれた中で、少子化対策にも、あるいは人口減少にも大きな歯止めがかかるかなと考える

ると、基金については、ある程度認めていかざるを得ないだろうと思うが、ただ、洋上体験はどうですか。ぼくは、御前崎中が組合なので、御前崎からも出すから牧之原からも出すよという形を、協力はしっかり取ってもらわなくてはいけないということ。やはり、牧之原の教育はこうだよと強く言うのか、あるいは御前崎が管理者だから御前崎に合わせてやっていくからいいよと言うのか、そこのすり合わせをある程度しっかりしておかないと、組合立であるだけになかなか難しいし。ぼくは議会の了解さえ得れば、基金を御中の子どもに使っても別にいいと思う。苦情が少しは出るかもしれない。ただ、これは教育のために使われたものであって、公金なので、悪いね、という気持ちを少しは持ってもらわないとね。お金の方は基金を使ってもいいと思う。議会だけちょっと調整させてもらいたいけど。

○本目委員長

今、市長さんからいろいろお話が出たけど、それについてもやはり行政が違うので懐も違うので、市長同士も腹を割って話をしてもらって、それから教育長さんも。この前、会合で坪内さんと会ったときに、管理は御前崎市がやっているの、こっちから言えないので、向こうから何でも言ってくれば、地頭方の子どもたちに迷惑をかけないようにするということでした。だからお互いにずれがあるかもしれないので、教育長さんは教育長さんと、それから市長さんもいろいろ話をしてもらって。それはあっても学校組合の管理者なので、石原市長が御前崎中学校を管理してもらわなくてはならないので、ということでよろしくお願ひします。洋上体験というのは、夏休みとか冬休みとかに行く話ですか。

○篠田教育長

今は春休みですが、2泊3日で中学生がリーダーとなって、小学生を引っ張って洋上体験をするのですが、中学生にとっては、将来のリーダーとして大変いい活動です。洋上がどうのこうのというより、小学生をリードする意味では。今年度行った御中生も浜中生もりっぱなリードをしてくれて、大変よかったですと思います。

○本目委員長

そのようなことを牧之原市でもやっていますよね。それは山崎財団とって、TDKの山崎さんが牧之原市に3億円寄付して財団を作って、以前は相良町だけだったけど、今は、相良、榛原の小中学校に、学校からの要望で年間500万円くらい出している。海外という訳ではないが、鹿児島島の宇宙センターに募集で行ったりしている。

○本目委員長

洋上体験に、今、牧之原の子は行っていないの。

○篠田教育長

地頭方地区の子は行っていないです。

○石原市長

お金がないからということですか。

○篠田教育長

牧之原に言っていないからです。頼んでないからです。

○石原市長

組合として、予算を組めばいい。

○萩原教育部長

そういう一つの方法もあるかもしれませんが、ただ、先ほど本目委員さんから出ました、

向こうはTDKの基金がありますよ、それは、白羽、御前崎の子どもには。

○石原市長

それは向こうの懐のことであって、組合立でやっているのであれば、予算事務局をやっているのだから、こっちでもこれだけお金を使うので牧之原もこれだけ予算を入れてくださいと。山崎財団のお金があるとか、うちにもお金があるとか、それは互いの懐のこと。

○萩原教育部長

行政が違うことによって、それぞれの行政の目玉の事業ということで、御前崎中学校がどうのこうのというより、お互い行政という色で引っ張るので、これは市長さんがいうように好ましいことではない。できれば組合の予算に両方から抛出して、それでその分を賄うことができれば、それも解決すると考えています。牧之原市の教育委員会ともそういう視点で話をさせていただくようにします。

○本目委員長

だから教育長さん、牧之原市の教育長は洋上体験とか知らないと思う。そういったお金がかかるということ。そのへんは今部長が言われたように、予算化して、その時話をして。

○石原市長

国際交流も言うだけ言ってみて、だめならだめで。池高に対して、牧之原の子でも菊川の子でも出してやる方向で考えてやらないと、池高が伸びていかないと思う。

○萩原教育部長

先ほど市長さんがご発言いただいた、御前崎中学校の生徒というものを、海外研修とかそういうものに、そういう同意を取り付けていただければ、うちの方はありがたいことですので、募集も御前崎中学校、市内小中学校、同一の募集を掛けて、そういう計画ができれば大変ありがたいことだと思います。

○石原市長

予算を出してみて、出せるか出せないかなので。出さないで言ってもよくないので、言えば出してくれるかもしれないので。

○萩原教育部長

今、スポーツや文化で頑張っている生徒に御前崎市でも資金を出していますが、学校組合だと、たとえば地頭方の子が頑張ってどこに行くっていう時に御前崎市は出せませんので、その点については、学校組合の予算に双方から出して、それで御前崎中学校については、その中から、資金を出すようにしていますので、それと同じような考え方で牧之原市の方でも、そうだね、と行っていただければ、さきほどのことも解決できると思いますので、提案をしてみます。

○田代委員

そうすると、その話し合いにのせたい要望というのは、他にも出てくるのですか。

○篠田教育長

今のところ洋上体験ですとか海外派遣とか出てきますが、それは教育委員会の主催ではないですから、そういったことが多少あったときに、地頭方の子は、いつも募集から外してしまうことがありましたが、こどもミュージカルは、地頭方の子もちゃんと参加しましたし、それは分け隔てなくやっています。ですから、個人的にお金がかかるものについて、難しい面があったみたいです。今後、牧之原と相談してみます。

○本目委員長

うちの子どもも3人あって、御前崎中学を卒業して問題もなかったし、ただ、原崎さんが保護者の立場で気が付いたことや、疑問に感じたことがあったら。

○原崎委員

今お話しをお聞きしますと、お金のことは難しい問題ですが、子どもたちはそんなことは何も思っていないです。ただちょっとお聞きすると、牧之原は牧之原でやっている、でも地頭方区はなかった。でも御前崎は御前崎でやっている、で、ここだけすっぽり穴が開いていたという事実を今始めて聞いたので、少し悲しくなりました。6、7年くらい前に地頭方地区の子が海外の研修に行きたいといったときに、ごめんね、地頭方だから、と断られたというお母さんの話を小耳に挟んだことがあります。その時に、なんで何だろう、と少し悔しく思ったよという話を、同じ子どもなのにね、という話をお聞きしました。もしよかったら、上手にお話ししていただけたらと思います。

○篠田教育長

学校教育自体は決してそんなことはありません。市主体の行事については難しい面がありました。今まで、あれっというのはありません。努力します。

○石原市長

1回、教育長は教育長、教育委員は教育委員、首長は首長ですり合わせしないと。いつまでもぐずぐずやっても仕方ないので、1つのこういうものができたので、やらないと前に出ない。

○田代委員

ある意味いい機会ではないですか。

○石原市長

いかに教育委員さんのお力を借りて進めて行くかだよ

○大川部長

さっきのいろいろな事業の関係ですけど、市の事業としてやってしまうものだから、御前崎市の事業によその人が入るとお金は回しませんという話になってしまうので、事業がどういものが該当するかわかりませんが、学校組合の事業として必要だということであれば、それは予算化して、負荷割合はどのようにそれぞれ持ち寄るかということになると思います。たとえば、さっきの洋上研修にしても海外研修にしても、組合の事業として必要だとなればそれは予算化してそれぞれの市から分担金を出すと。その裏付けというか、その補助みたいなのは、御前崎にそういった補助制度があれば補助はするし、牧之原にそういった補助があればすればいいし。組合の事業にそういったものを予算化されるかどうかというのを検討すればいいのでは。お金の出し方については、そのあとに検討していけばいい。その海外研修とかが組合事業にふさわしいかどうかというのは別の話ですが。そうすればうまくいくのではと個人的には感じました。

○本目委員長

今、大川さんが言うように、御前崎中学生を対象に洋上とか海外研修をやる場合は、学校組合の関係なので牧之原市も協力する。他の事業は別としても、御前崎中学生を対象にする場合は、予算化して、御中の子が白羽だ、地頭方だ、ということがないようにできるよう、やっていただければありがたいです。

○萩原教育部長

先ほどからおっしゃられるように、教育の面については何ら変わりはない。ただ、学校組合という中で、そこに御前崎の子と牧之原の子と差別があるというのは、いろいろな場面で何が違うかとそここのところが表に出てくるということがたびたび耳にしますので、今日の会議の中でそういう観点で議論いただいたということで、どんな形かを含めて1回、できるかできないか別にして、牧之原市の教育委員会と話をしてみたいと思います。何にしても牧之原市に了承をとらないと先に進まないと思いますので、そういうことも含めて事務局で、事務的なすり合わせを試みてみたいですのでよろしく願いいたします。何にしても郡をまたいで違う市同士で一部事務組合という特殊な組織ですので、大変難しいと思います。そういう中で、御前崎市も郡をまたいで合併した、その時のけん引役の石原市長がしっかりとした方向性で引っ張ってくれると思いますので、管理者として、またよろしく願いたいと思っています。最後に一部事務組合のいろいろなことが出ましたので、これは引き続きの協議事項かと思っています。本日につきましては、いろいろご意見をいただきましたので、一応ここで閉めさせていただいて、最後に市長からまとめも兼ねまして、閉会のご挨拶をお願いしたいと思います。

6. 閉会

○石原市長

本日は限られた時間ではございますが、総合教育会議ということで、熱心にご審議いただきましてありがとうございます。内容的に見れば時間が足りないかと感じますが、やはり臨時の総合教育会議をやっても、少しでも早く御前崎中学校が、牧之原市と御前崎市のすり合わせができるよう皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。先ほどの原崎さんの「悲しくなった」という言葉にじーンと来てしまいました。子どもたちのことでございますので、今後とも皆様方のご協力をお願いいたしまして、閉会のご挨拶に代えさせていただきます。

○萩原教育部長

ありがとうございました。それでは、以上で平成27年度第1回御前崎市牧之原市学校組合総合教育会議を終了いたします。